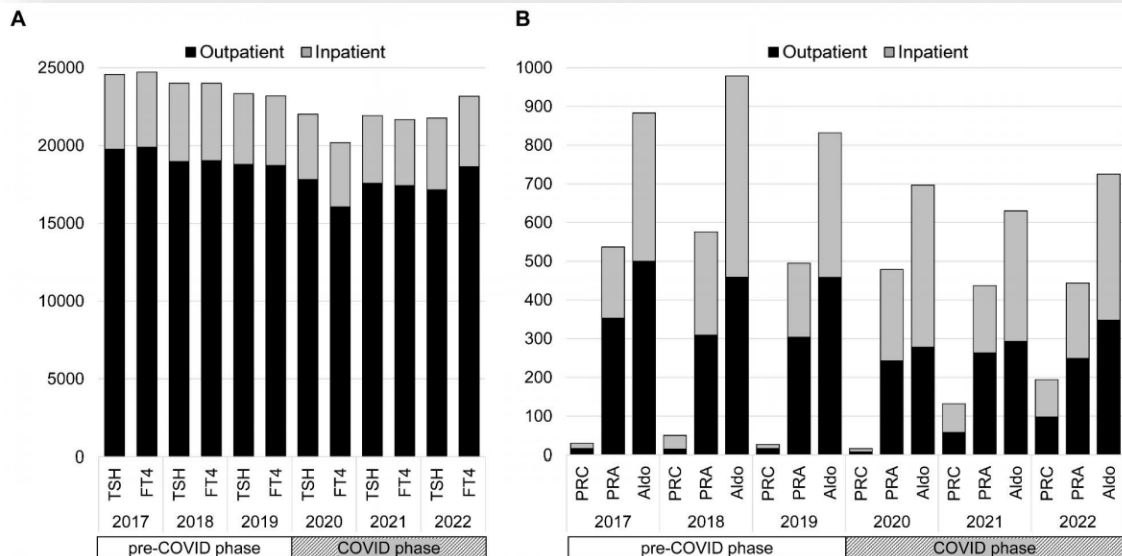


— 研究短報 —

COVID-19 流行が内分泌検査数に与えた変化

大塚 勇輝^{1)※} 古川 雅規²⁾ 東影 明人²⁾ 大塚 文男¹⁾²⁾



- 当院検査部でのホルモン測定件数を、COVID-19流行中の3年間とその以前の3年間を比較した。
- 下垂体ホルモンの測定件数は増加していた一方で、甲状腺や副腎アルドステロンに関する件数が減少していた。
- 特に外来では、TSH・レニン・アルドステロン測定が減少した。

- ✓ 内分泌疾患に対する対面診療の変化、倦怠感患者さんの増加が影響した可能性
- ✓ 臨床検査の観点から、COVID-19の流行が医療の質に影響を与えた可能性